

切り欠かれた境界 —児童館とコミュニティセンターの複合施設の提案—

法政大学大学院 デザイン工学研究科 建築学専攻
渡邊真理 研究室 松本明博

1. 研究背景

公共施設という様々な人が自由に使える施設において、それぞれ違う目的を持った人が集まるという状況に可能性を感じた。

今日の公共施設は様々な人や機能を許容するため、あまりにも完結的な空間としてつくられている。それは使用者、管理者側からは使いやすく、管理しやすい空間である。しかし、このようなすべてを許容した空間は、かえって行為を単一化し、人の行為がもつ多様性を包容できない空間となってしまっているのではないか。

誰でも自由に使える地域の施設として、様々な人が集まることで新しい出会いや行為を生み出すことのできる場であるべきである。



カンポ広場 (シエナ)

2. 提案

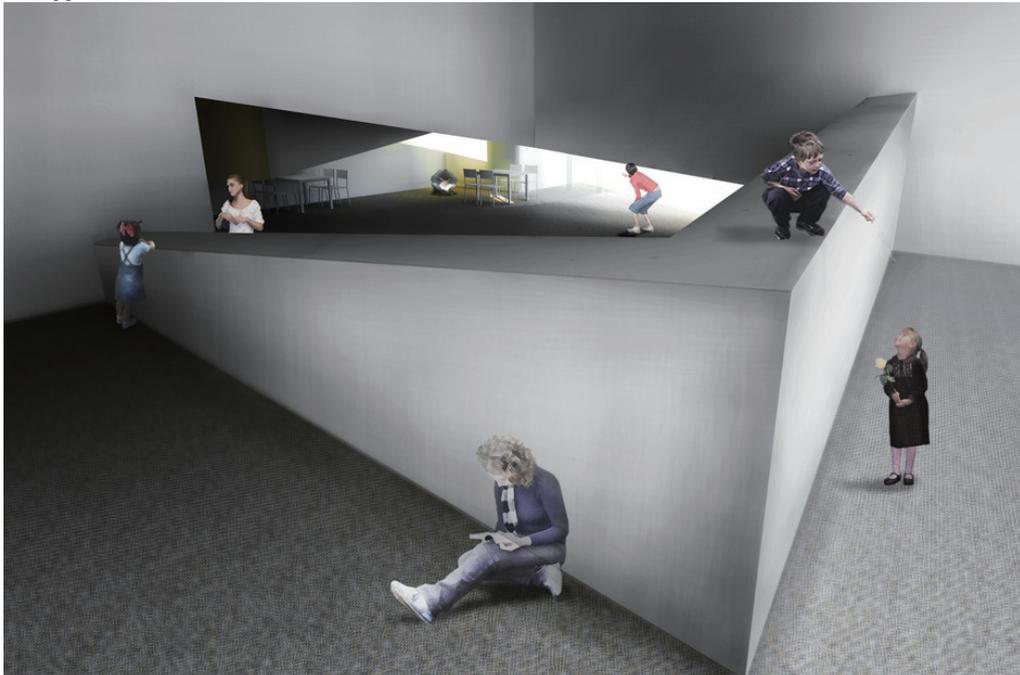
old type



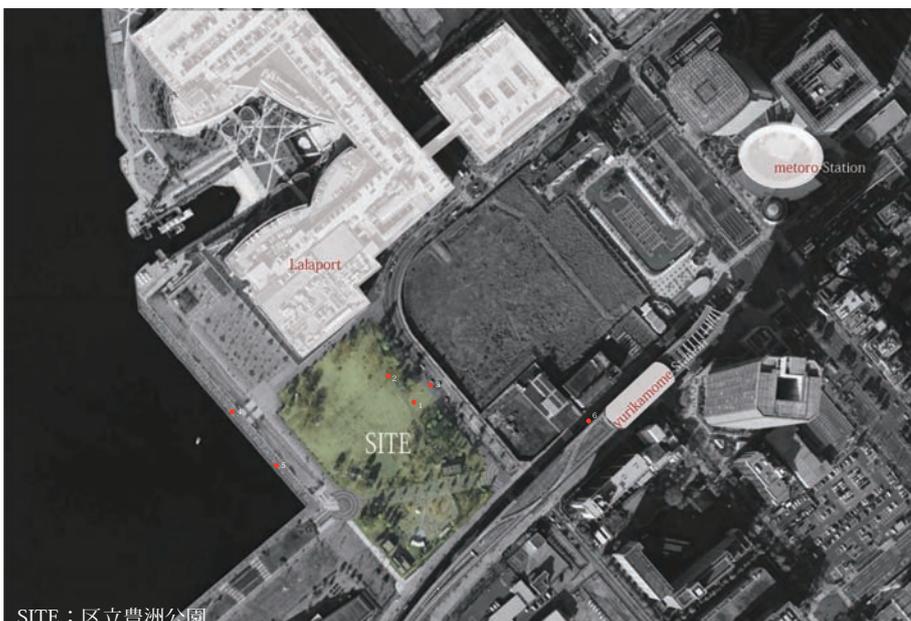
二つの部屋の間には、境界として空間を区切る壁があり、ドアやマドは両者を繋ぐための接続装置として作用している。しかし、従来これらの装置は隣がうるさければマドを閉め、ドアは通るためだけのものとなり、一様な関係しか形成されていない。そこで空間と空間に多様な関係性や場の発生を促すためにそれを拡張する手法を提案する。

境界としての壁をもう一つの空間をつくるように膨らませ、斜めに切り欠く。この操作により平面的にも断面的にも領域が交じり合い、斜めに切り欠かれた壁は垂れ壁や腰壁となり、身長によって視線や動線を限定し、多様な居場所を人々に提供する。この新しい接続装置は文字通り切り欠かれた境界となる。

new type



3. 敷地・プログラム



□空間の多様性が希薄した都市、豊洲

現在大規模再開発が進行し、経済至上主義を象徴する都市、豊洲。この地において空間の多様性は希薄である。街は閑散とし、奥行き感がなく人々が留まれるような場所が現在ほとんど存在していない。広い歩道に置かれた遊具とベンチ、大きな公園、何でもそろう大規模商業施設、一見とても便利で安心、楽しい場のように感じるが、これらのすべてを許容するようつくられた場に息苦しさのようなものを感じる。

□部屋を並べただけの児童館と文化センター

若い世帯の人口増加に伴い児童館や文化センターのようなコミュニケーション施設の見直しが求められている。しかし、豊洲にはマンションの一部を児童館として使っている施設が一つと、必要な面積の部屋がただ並べられたような文化センターとなってしまうのが現状である。この現状に疑問を感じこれら施設の建て替えを計画する。

□人の集まる場所

ここは豊洲の中でも、緑のある大きな理路場を持つ広域である大きな広場をもつ公園である。近くには大型商業施設であらばとやがあり平日にもかかわらずたくさんの親子や、犬の散歩をしている人々にぎわっている。海が近く、気持ちよく、ららばーとの広場と連続しているための、人々は一日中ここで過ごす人もいるくらいである。また、駅からも近くアクセスしやすい場所である。



1

2

3

4

5

6

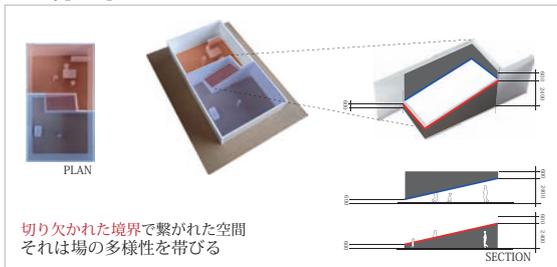
4. ダイアグラム

■ concept model

old type



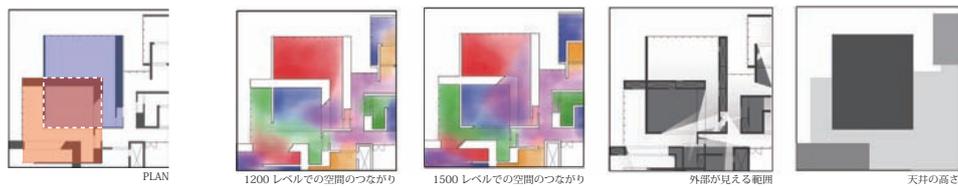
new type - phase1



new type - phase2



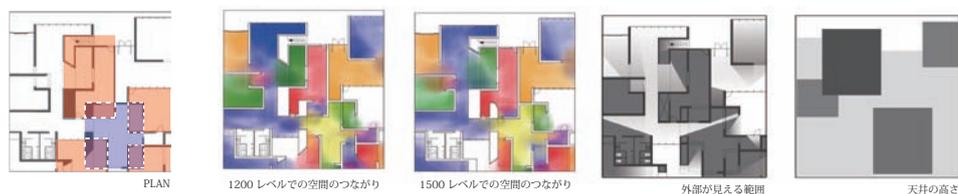
□model-1 大きな切り欠かれた境界をもつ空間



model-1 では大きな「切り欠かれた境界」をとりあげている。重なった面積が大きいこの場所は緩やかな傾斜の壁によって空間の質は緩やかに変化していく。ここでは切り欠かれた境界が1つの部屋のように使われ、大きく区切られた空間は異なるグループによって使われるかもしれない。



□model-2 小さな切り欠かれた境界を多くもつ空間

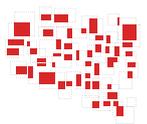
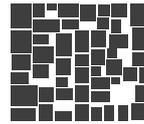


model-1 では小さな「切り欠かれた境界」をとりあげている。急な傾斜の壁によって空間の質はめまぐるしく変化する。ここでは隣の部屋や外部が入り込みくぼんだ場所です子供たちは遊び、動くにつれ次々と入れ替わる風景に好奇心旺盛な子供は夢中になる。





□部屋の重なり 必要な面積の部屋を公園に重複させながら配置していく。様々な大きさの部屋の重なりにより様々な重複部、つまり切り欠かれた境界ができる。



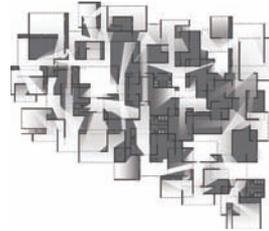
様々な大きさの部屋

部屋を重複させる

部屋と部屋の重なり

□外部とのつながり 建築内には中庭が4つ存在する。一見壁による閉鎖的な空間だが、壁の隙間からは空や芝生の緑が見えることで、安心感が得られ心地よい場所になると考えた。また、自分の場所を把握し、光をたどるように人々は建築内をさまよう。

公園からは建築の中庭までの抜け、また建物突き抜ける抜けによって建物に入ってみたいという人の意識を内部に引き込み、建築と公園の連続をつくっている。

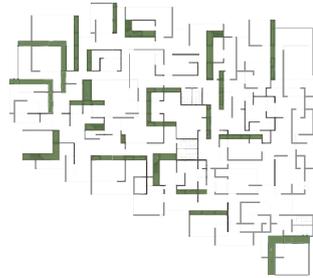


外から中庭への抜けを見る



外から外への抜けを見る

□壁の厚み これら厚みを持った壁は、各部屋に必要な不可欠な収納スペースと垂直動線の確保を担っている。また、階段下のような隙間空間や壁を挟んだ室間の見え方や距離感をつくる要素の一つにもっている。



・収納スペース

・階段と隙間空間

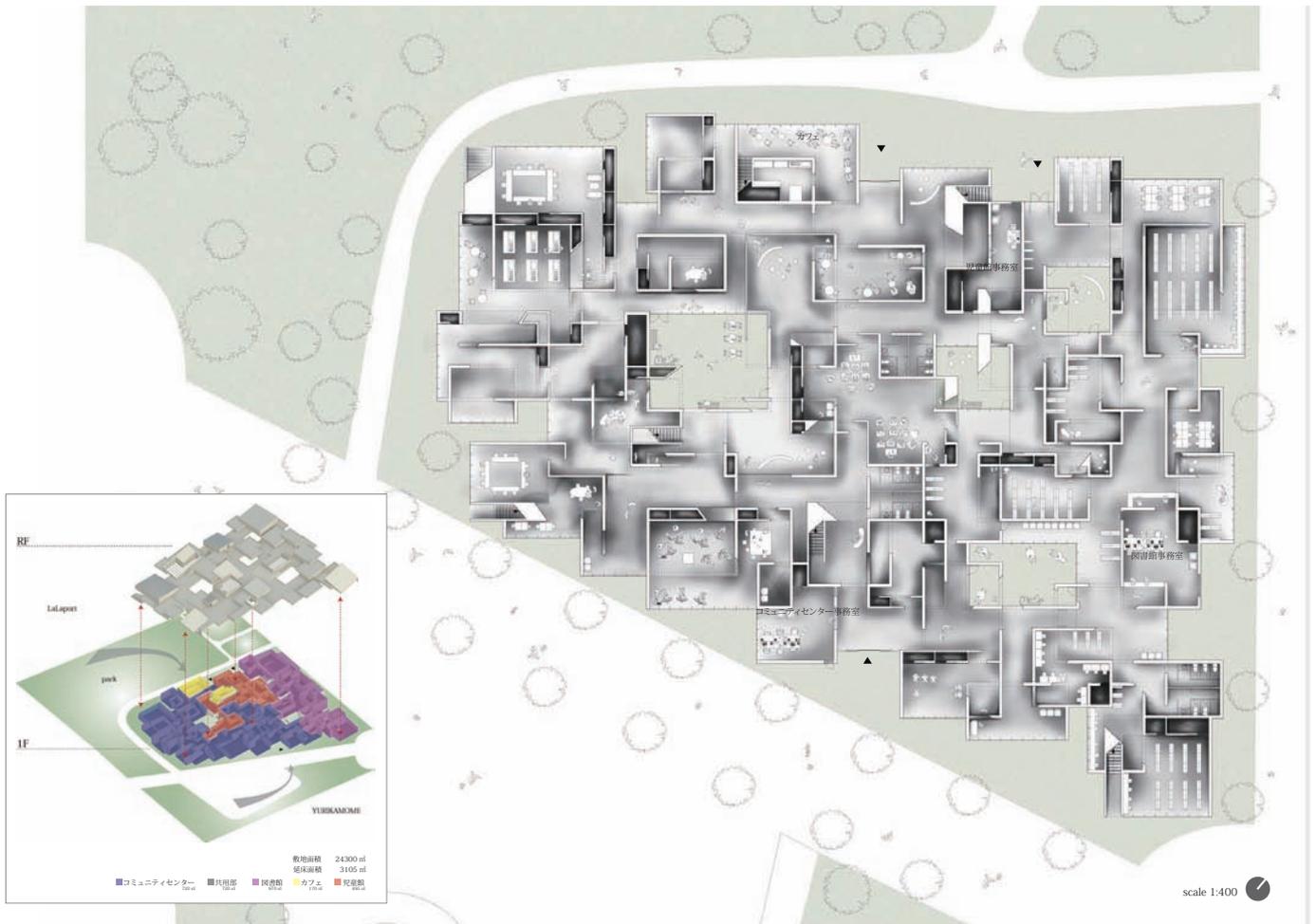


・部屋と部屋をつなぐ空間

・物理的な壁厚と感知的な距離



5. 図面





A-A' SECTION



SOUTH ELAVATION

6. 空間イメージ



様々な人が集まる場所だからこそ、それぞれの関係が生まれてゆく。

切り欠かれた境界を内包したこの建築は、身体性の違いや、周りの環境に応じて使われ方が変化するような多様性と公園とのつながりを持つ。